

平成 23 年度総会・学生討論会 報告書



日本学生観光連盟

平成 24 年 3 月 22 日

日本学生観光連盟 関係各位

日本学生観光連盟
代表 藤野 里帆
(立教大学 観光学部 2 年)

日本学生観光連盟 平成 23 年度総会・学生討論会のご報告

平素より日本学生観光連盟(略称:学観連、英語名称:Japan Student Tourism Association)の活動にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月 3 日(土)、立教大学新座キャンパスにて開催された、平成 23 年度学観連総会・学生討論会についてご報告致します。

【参加大学・参加人数】

立教大学、帝京大学、東海大学、桜美林大学、杏林大学、川村学園女子大学、跡見学園女子大学、流通経済大学、文教大学、明海大学の 10 大学から、36 名の学生が参加しました。

また、学観連サポーター・連携企業・観光関連団体から、合わせて 7 名にご参加いただきました。

【平成 23 年度総会報告】

議事には平成 23 年度活動報告および決算報告、平成 24 年度事業計画および予算案、一部規約改正案が挙がり、いずれも原案通り承認されました。

平成 23 年度の活動として報告されたものは以下の通りです。

- ・ 6 月 25～26 日 学観連主催 横浜フィールドワーク・学生討論会
- ・ 9 月 7 日～10 日 若旦那・若女将密着体験合宿(全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部様のご協力のもと)
- ・ 11 月 26 日 学観連主催 講演会 2011
- ・ 2 月 10 日 (社)日本観光振興協会主催 産学連携オープンセミナー(学観連共催)
- ・ 5 月～12 月 (株)JTB 法人東京×学観連共同プロジェクト

新年度役員改選では、以下の 13 名が新役員として承認されました。

<平成 24 年度執行部役員> ※学年は平成 24 年 4 月時点

代表	藤野 里帆	立教大学 3 年
副代表	遠藤 優弥	東海大学 3 年
	林 日奈子	桜美林大学 2 年
会計	加藤 友里	帝京大学 3 年
会計監査	三堀 世奈	東海大学 3 年
総務	川崎 理美	横浜商科大学 2 年
	金野 奈緒子	文教大学 3 年
	富樫 沙貴	立教大学 2 年
広報	諸角 智亜	立教大学 3 年
	北田 百合子	横浜商科大学 3 年
	岩崎 仙李	帝京大学 3 年
渉外	徳武 希和子	帝京大学 3 年
	田中 夏帆	跡見学園女子大学 2 年

平成 24 年度事業計画として承認されたものは以下の通りです。

- ・ 6 月 フィールドワーク（「産業観光」をテーマに川崎市で実施予定）
- ・ 11 月 観光産業従事者を招聘しての講演会開催
- ・ 2 月 (社)日本観光振興協会主催 産学連携オープンセミナー
- ・ 3 月 学観連総会

その他にも、SNS を活用した広報活動の充実、会員交流イベントの開催等を計画しています。

学観連規約改正では、

1.役員と代議員の兼務に関する事項の明確化、2.執行部の各役職の仕事内容の明確化の 2 点が提案され、承認されました。

【学生討論会報告】

本年度も、総会後の企画として学生討論会を行いました。

「ニューツーリズムの可能性～学生から見る新しい観光のあり方～」を討論テーマに、6グループに分かれて討論を行い、最後に討論で出された意見の報告会を行いました。

エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光など、従来の物見遊山的な観光とは異なる、体験・交流の要素が強い観光のあり方が浸透してきていることを受け、新しい観光のあり方・あるべき姿とは何か、今後学生に受け入れられる観光とは何か等について意見を出し合いました。

討論会後の発表では、学生の自由な発想から生まれた、新しい形の観光が複数発表されました。以下に、各グループの討論内容を掲載します。

<グループ1>

まず「ニューツーリズムとは何か」について考え、各々がイメージしているニューツーリズムについてブレインストーミングをしたところ、

- ・ニューツーリズムとは、着地型の観光である。
- ・ 〃 地域活性化につながる旅行の仕組みである。
- ・今日、若者の旅行離れが騒がれる中で、学生の志向に合ったニューツーリズムがあれば、学生の旅行振興に貢献できるのではないか。

などの意見が挙げられた。

そこで、私たちは学生に合った『ニューツーリズム』を提案する。

学生が旅行に出かけない原因として、「旅行をするきっかけがない」という意見が挙げられた。そのきっかけづくりのヒントとして、最近の学生が興味を持っていることは何かを話し合ったところ、マンガやアニメ、映画、さらに具体的には「スタジオジブリの作品」といった意見が挙げられた。

▽「オタクツーリズム」の提案

学生の旅行振興につながる最も効果的な方法は、「きっかけ作り」である。そのきっかけは、多くの学生が興味を持っている、マンガやアニメのモデルとなった場所をPRすることで生まれる。学生にとって、世界遺産に指定された場所よりも、自分の好きなアニメの思い出の場所を訪れる方が魅力的なのではないか。そこで、その場所を巡る「思い出ツアー」を提案する。

例) 『耳をすすませば』思い出巡りツアー」

誰もが知っているジブリの名作、『耳をすすませば』のモデルとなった、東京都多摩市の聖蹟桜ヶ丘の地を声優と巡る思い出ツアー。

以下は、その他に上がったツアーの例

- ・産業観光×ガンプラ工場
- ・オタクのガイドによる聖地巡礼

<グループ2>

ニューツーリズムは

- ・住民が参加できるという点で地域活性化につながる。
- ・新たな収入源を生む。
- ・社会問題に対応できる。

といった意見が挙がり、それを実現していくには、

- ・まずはニューツーリズムの基盤である地域住民が盛り上がりなければならない。
- ・ニューツーリズムに取り組む団体や地域をサポートする必要がある。

といった意見が出た。

▽プラットフォーム立ち上げの提案

ニューツーリズムに取り組む団体や地域をつなぐプラットフォームを作ってはどうか、という提案を行った。このプラットフォームは、ニューツーリズムに取り組む団体・地域の情報交換や、ニューツーリズムを手段として地域の活性化を考える人々の橋渡しを行う。

<グループ3>

まず、現在あるニューツーリズム『食』『メディカルツーリズム』『グリーンツーリズム』『産業観光』『その他の観光』について、それぞれの特徴をまとめていった。そこから分かるツーリズムの現状について、以下のようなことが挙げられた。

- ・見ているだけでは物足りない。
- ・別の刺激がほしい。
- ・ニーズが多様化している。
- ・時間はあるがお金がない。
- ・震災による意識の変化がツーリズムの志向にも影響している。

これらの意見を元に、これからのツーリズムの在り方について考えた。

○ニーズの多様化・別の刺激がほしい

→・趣味や学んでいることを観光に繋げていく。

・楽しみながら勉強できるものを創る。

○お金をかけない、震災による絆の大切さの再認識、古き良き知恵への興味

→昔のものが良い、昔に回帰→不便さも一種の旅の楽しさ。

▽「田舎へ泊まろう」プランの提案

「不便さも一種の旅の楽しさ」ということから、具体例として、ある地域の人達に協力してもらい、宝探しのように泊めてくれる民家を探し当てるといふ、一般人向け「田舎へ泊まろう」の提案がなされた。

- ・ある地域に泊めてくれる民家を何軒か用意する。
- ・観光客に、地域の人々と触れあいながら、泊めてくれる民家を探し当ててもらふ。
- ・地域活性化に繋げていく。

ニューツーリズムは、外国人客誘致を促進し、インバウンドや円高問題の解決に繋げていくことができる可能性を持っている。そのためには、今あるツーリズムを認知させる必要や、持続性があるツーリズムを考えていく必要がある。

<グループ4>

学生にニューツーリズムが浸透していない理由として、学生目線で商品（プログラム）が創られていないことが挙げられた。学生へのプロモーションに、もっと学観連が持つネットワークを活用すべきである。

▽「GaT (Give and Take) ツーリズム」の提案

学生は経済的な理由や目先の娯楽にとらわれて、なかなか旅に出ない。そこで、Give and Take の精神に基づいたツアーを提供すれば、もっと学生が参加するのではないかと考えた。学生は社会貢献への関心や奉仕の精神を持っているが、その分の見返りも求めている。貢献した分だけ学生側も何かを得られるツアーなら、学生も参加したくなる。

例) 世界遺産の掃除

単に物見遊山的に世界遺産を観光するのではなく、学生のフットワークの軽さを生かして遺産の掃除やゴミ拾いを行うことで、特別に普段公開していない部分を見せてもらう。

<グループ5>

ニューツーリズムは現状の問題・課題の解決が必要とされたために始まったと考えた。

- 例)・節電や自然保護→グリーンツーリズム・エコツーリズム
- ・都市化、地域の過疎化→文化観光
 - ・人とのコミュニケーション不足→体験型の観光

つまり、ニューツーリズムは着地型の観光であり、地域住民の思いが強く盛り込まれている。しかし、これらの観光は本当にニーズのあるものなのか。参加する側の学生の視点から考えた。

確かに節電や自然保護、人とのコミュニケーション不足解消は必要なことと考えるが、学生が観光しに外出しようと思うほど興味を持つものは他にもある。

- 例)・料理やカフェ、スイーツなどの食に関係するもの
- ・カメラやスマートフォン
 - ・ファッションや美容
 - ・英語やその他の外国語

学生が興味を持っているものと上手く組み合わせられているニューツーリズムは成功するのではないか。興味のあることをしながら楽しく社会貢献をすることができる。

例)・バーチャル観光

現在は残っていない遺跡や建物があつた場所にスマートフォンをかざすと、当時あつた遺跡や建造物が画面上に映し出されるというアプリケーションを利用して、遺跡を巡る観光。

・田舎の美人の秘密を探る観光

田舎で育つからこそその健康の秘密を教えてもらう観光ツアー。観光地として有名ではない地域で、少人数編成で地元の習慣や食事などを体験させてもらう。

<グループ6>

6班はニューツーリズムの中で、エコツーリズムにテーマを絞って討論した。

・エコツーリズムのアピールポイント

- ① 田舎を疑似体験することができる。
- ② ファームステイ・農村体験
- ③ 地域の人々と密接な関係が持てる、おもてなしをより感じるすることができる。

・現状と改善点

- ① 知名度が低い。
→学生間でコミュニティをつくる。
(エコツーリズム専用のサイトを作成する、学内広報誌に掲載するなど)
- ② 身近ではない、手ごろな感じがしない。
→エコツーリズムの魅力を知ってもらう。
(エコツーリズムを行った特集を組む、学園祭で告知するなど)
- ③ 娯楽目的ではない。
→自然を体感
(空から自然を見るスカイダイビングやパラグライダー、カヌーなど)

これからもエコツーリズムを推進するのであれば、アピール点の維持・保全をしなければならない。

そのためにも、田舎特有の風景を地域同士の連携や意識の統一によって、その地域を保全していき、その魅力を広めていくことが必要となる。



【新代表挨拶】

学観連新代表に就任しました、立教大学の藤野里帆です。

今年度の総会も、多くの方々のご協力のもと、無事に終えることができました。総会の準備にご協力いただいた顧問の先生方・現執行部役員の先輩方、参加してくださった学観連会員の皆様、サポーター・連携企業の皆様に深く感謝申し上げます。

2009年の設立から早くも3年が経ち、私たち新役員は学観連の4代目の役員となりました。1期から3期の先輩方が築いてきた学観連の基礎を守りつつ、さらなる発展へとつなげるため、新役員一同協力して学観連の運営に取り組んでいきます。

次年度も引き続き、日本学生観光連盟をよろしくお願い致します。

【皆様へ】

学観連では「観光を学ぶ学生同士がネットワークを構築し、実社会の観光場面で学習活動並びに社会貢献を行うことを通して、観光の新たな可能性を求める」ことを目的に、年間を通して学生主体の講演会やフィールドワーク等を企画・運営しております。現在では参加大学数 24 大学、会員数 341 名の組織に成長し、観光系学部・学科に所属する学生の団体として多方面で認知されてきました。今後も、学観連が持つ学生のネットワークを生かして大学の枠を超えた活動を展開し、実際のフィールドで観光を実践的に学んでいきます。各イベント・プロジェクト開催の際はぜひご参加ください。また、皆様からのご意見、活動提案も随時募集しております。

学観連サポーターならびに連携企業・団体の皆様には引き続きご支援よろしくお願い致します。

【各種お問い合わせ先】

ご質問・お問い合わせ等がございましたら、下記の連絡先までお知らせください。また、下記のアカウントにて随時イベントのご案内をしております。合わせてご覧ください。

- ・ メールアドレス : gakukanren@yahoo.co.jp
- ・ HP : <http://gakukanren.web.fc2.com/>
- ・ ブログ : <http://ameblo.jp/gakukanren/>
- ・ Facebook : <http://www.facebook.com/gakukanren>
- ・ Twitter : @gakukanren

日本学生観光連盟本部 : 〒230-8577 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1
横浜商科大学 商学部 貿易・観光学科 宍戸研究室内